安全データシート

3,3-ジメチル-2-ブタノン

改訂日：2024-01-29 版番号：1

1. 化学品及び会社情報

製品識別子

製品名	: 3,3-ジメチル-2-ブタノン
CB番号	: CB5245383
CAS	: 75-97-8
同義語	: 3,3-ジメチル-2-ブタノン

物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途	: 中間体、殺菌剤(トリアデメホン、トリアゾリルビナコロン)の中間体、除草剤の中間体、
推奨されない用途	: なし

会社ID

会社名	： Chemicalbook
住所	： 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟
電話	： 010-86108875

2. 危険有害性の要約

GHS分類

分類実施日

環境に対する有害性はGHS改訂4版を使用

H24.3.1、政府向けGHS分類ガイダンス(H22.7月版)を使用

物理化学的危険性

引火性液体　区分2

環境に対する有害性

水生環境有害性 (長期間)　区分3

水生環境有害性 (急性)　区分3

GHSラベル要素

絵表示

GHS02	GHS07

注意喚起語

危険

危険有害性情報

長期継続的影響により水生生物に有害

引火性の高い液体及び蒸気

注意書き

安全対策

環境への放出を避けること。

保護手袋､保護眼鏡､保護面を着用すること。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

火花を発生させない工具を使用すること。

防爆型の電気機器､換気装置､照明機器を使用すること。

容器を接地すること､ｱｰｽをとること。

容器を密閉しておくこと。

熱､火花､裸火､高温のもののような着火源から遠ざけること｡-禁煙｡

応急措置

火災の場合には、火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用すること。　火災の場合:消火に…を使用すること。

皮膚(又は髪)に付着した場合:直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと。皮膚を流水、シャワーで洗うこと。　皮膚(又は髪)に付着した場合:汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を流水、シャワーで洗うこと。

保管

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

廃棄

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

---

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別	: 単一製品
化学名又は一般名	: 3,3-ジメチル-2-ブタノン
別名	: tert-ブチルメチルケトン、メチルtert-ブチルケトン、ピナコロン、tert-Butyl methyl ketone、Methyl tert-butyl ketone、3,3-Dimethylbutan-2-one、Pinacolone
濃度又は濃度範囲	: 100%
分子式 (分子量)	: C6H12O (100.16)
CAS番号	: 75-97-8
官報公示整理番号(化審法)	: (2)-542
官報公示整理番号(安衛法)	: (2)-542
分類に寄与する不純物及び安定化添加物	: データなし。

---

4. 応急措置

吸入した場合

気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

皮膚刺激が生じた場合:医師の診断、手当てを受けること。

直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと。皮膚を流水、シャワーで洗うこと。　皮膚(又は髪)に付着した場合:汚染された衣類をすべて脱ぐ

こと。皮膚を流水、シャワーで洗うこと。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次にｺﾝﾀｸﾄﾚﾝｽﾞを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合

気分が悪いときは医師に連絡すること。口をすすぐこと。

予想される急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候及び症状

データなし。

応急措置をする者の保護

データなし。

医師に対する特別注意事項

データなし。

---

5. 火災時の措置

消火剤

粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂

使ってはならない消火剤

棒状水

特有の危険有害性

燃焼ガスには、一酸化炭素等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙の吸入を避ける。

特有の消火方法

消火に粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂を使用すること。　火災の場合:消火に…を使用すること。

関係者以外は安全な場所に退去させる。

火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。

周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。

消火作業は、風上から行う。

消火を行う者の保護

消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。

---

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置

必要に応じた換気を確保する。

多量の場合、人を安全な場所に退避させる。

作業には、必ず保護具(手袋・眼鏡・マスク等)を着用する。

環境に対する注意事項

漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

少量の場合、吸着剤(土・砂・ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取る。大量の水で洗い流す。

多量の場合、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてからドラム等に回収する。

火花を発生しない安全な用具を使用する。

漏出物の上をむやみに歩かない。

床に漏れた状態で放置すると、滑り易くスリップ事故の原因となるため注意する。

付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

---

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。

安全取扱い注意事項

環境への放出を避けること。

火気厳禁

保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

火花を発生させない工具を使用すること。

防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。

容器を接地すること、ｱｰｽをとること。

容器を密閉しておくこと。

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。-禁煙。

衛生対策

取扱い後はよく手などを洗うこと。

保管

安全な保管条件

火気厳禁

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

容器包装材料

データなし。

---

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

未設定

許容濃度

日本産衛学会(2010年度版)

未設定

許容濃度

ACGIH(2011年版)

未設定

設備対策

取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。

蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

火花を発生させない工具を使用すること。

防爆型の電気機器､換気装置､照明機器を使用すること。

容器を接地すること､ｱｰｽをとること。

保護具

呼吸器の保護具

必要に応じて、適切な呼吸器用保護具を着用すること。

手の保護具

保護手袋を着用すること。　必要に応じて、適切な保護手袋を着用すること。

眼の保護具

保護眼鏡､保護面を着用すること。

皮膚及び身体の保護具

必要に応じて、適切な保護衣を着用すること。

---

9. 物理的及び化学的性質

Information on basic physicochemical properties

形状	液体 (Merck (14th, 2006))
色	無色 (Ullmanns(E) (6th, 2003))
臭い	ハッカあるいはカンフル様のにおい(有機化合物辞典 (1985))
臭いのしきい(閾)値	データなし。
pH	データなし。

-52.5℃ (Merck (14th, 2006))

106.2℃ (Merck (14th, 2006))

3℃(CC) (GESTIS(Access on Dec. 2010))

データなし。

2.47mPa·s (HSDB (2008))

データなし。

520℃ (GESTIS(Access on Dec. 2010))

1.20(exp) (Howard (1997))

エタノール、エーテル、アセトン、四塩化炭素に溶解 (Merck (14th, 2006))

水:2.44wt% (Ullmanns(E) (6th, 2003))

0.801 g/cm3(20℃) (Ullmanns(E) (6th, 2003))

データなし。

31.5mmHg(25℃) (Howard (1997))

データなし。

データなし。

融点・凝固点

-52.5℃ (Merck (14th, 2006))

沸点、初留点及び沸騰範囲

106.2℃ (Merck (14th, 2006))

引火点

3℃(CC) (GESTIS(Access on Dec. 2010))

蒸発速度(酢酸ブチル=1)

データなし。

燃焼性(固体、気体)

データなし。

燃焼又は爆発範囲

データなし。

蒸気圧

31.5mmHg(25℃) (Howard (1997))

蒸気密度

データなし。

密度

0.801 g/cm3(20℃) (Ullmanns(E) (6th, 2003))

溶解度

エタノール、エーテル、アセトン、四塩化炭素に溶解 (Merck (14th, 2006))

水:2.44wt% (Ullmanns(E) (6th, 2003))

n-オクタノール/水分配係数

1.20(exp) (Howard (1997))

自然発火温度

520℃ (GESTIS(Access on Dec. 2010))

分解温度

データなし。

粘度(粘性率)

2.47mPa·s (HSDB (2008))

---

10. 安定性及び反応性

反応性

情報なし。

安定性

情報なし。

危険有害反応可能性

データなし。

避けるべき条件

データなし。

混触危険物質

データなし。

危険有害な分解生成物

データなし。

---

11. 有害性情報

急性毒性

経口

ラットのLD50値は610 mg/kg bwとある(RTECS(2006))が、データ不足である。GHS分類:分類できない　ラットのLD50値は610 mg/kg bwとある(RTECS(2006))。GHS分類:分類できない

経皮

データなし。GHS分類:分類できない

吸入:ガス

GHS分類:分類対象外

吸入:蒸気

データなし。GHS分類:分類できない

吸入:粉じん及びミスト

データなし。GHS分類:分類できない

皮膚腐食性及び刺激性

データなし。GHS分類:分類できない

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

データなし。GHS分類:分類できない

呼吸器感作性

データなし。GHS分類:分類できない

皮膚感作性

データなし。GHS分類:分類できない

生殖細胞変異原性

データなし。GHS分類:分類できない

発がん性

データなし。GHS分類:分類できない

生殖毒性

データなし。GHS分類:分類できない

---

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性(急性)

魚類(ファットヘッドミノー)の96時間LC50 = 87mg/L (ECETOC TR91 , 2003) から、区分3である。GHS分類:区分3

水生環境有害性(長期間)

信頼性のある慢性毒性データが得られていない。急速分解性がなく (BIOWIN)、急性毒性区分3であることから、区分3となる。GHS分類:区分3

オゾン層への有害性

当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていないため。

---

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。

内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

汚染容器及び包装

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

---

14. 輸送上の注意

国際規制

国連番号

1224

国連品名

ケトン類(他に品名が明示されているものを除く。)

国連危険有害性クラス

3

容器等級

Ⅱ

海洋汚染物質

該当しない。

MARPOL73/78附属書Ⅱ及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質

有害液体物質(Y類物質)

国内規制

海上規制情報

船舶安全法の規定に従う。

航空規制情報

航空法の規定に従う。

陸上規制情報

消防法の規定に従う。

特別安全対策

重量物を上積みしない。

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

移送時にイエローカードの保持が必要。

緊急時応急措置指針番号

128

---

15. 適用法令

労働安全衛生法

危険物・引火性の物

消防法

第4類引火性液体、第一石油類非水溶性液体

船舶安全法

引火性液体類

航空法

引火性液体

16. その他の情報

略語と頭字語

TWA: 時間加重平均

STEL: 短期暴露限度

RID: 鉄道による危険物の国際運送に関する規則

LD50: 致死量 50%

LC50: 致死濃度 50%

IMDG: 国際海上危険物

IATA:国際航空運送協会

EC50: 有効濃度 50%

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

参考文献

【14】Sigma-Aldrich、ウェブサイト https://www.sigmaaldrich.com/

【13】IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイトhttp://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home

【12】IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト http://www.iarc.fr/

【11】HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm

【10】有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイトhttp://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp

【9】ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイトhttp://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg

【8】eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイトhttp://www.echemportal.org/echemportal/index?pageID=0&request_locale=en

【7】ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト https://echa.europa.eu/

【6】ChemIDplus、ウェブサイト http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp

【5】カメオケミカルズ公式サイト http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple

【4】NITE化学物質総合情報提供システム (NITE-CHRIP)https://www.nite.go.jp/

【3】化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) https://www.chemicoco.env.go.jp

【2】化学物質審査規制法(化審法)https://www.env.go.jp

【1】労働安全衛生法 ウェブサイト https://www.mhlw.go.jp

免責事項：
本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本SDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。